

2020年3月期 決算説明会(電話会議) Q&A サマリー

Q: 2020年3月期の通期生産実績は、前期対比で減少したが、四半期毎の推移は、生産が1Q、売上高は2Qが底だった、東北工場と春日井工場ごとにどのような傾向だったか

A: 東北工場、春日井工場とも同様の变化で、どちらの工場も稼働は上がってきております。

Q: 流体制御機器の売上高が2Qから3Qにかけて増加し、セグメント利益も増加した。3Qから4Qにかけても同様に売上高は増加したものの、セグメント利益は2億円の増加に留っており、どの費用が増加したのか

A: 3Qから4Qにかけて東北工場は稼働が伸び、固定費の比率が下がってきていますが、東北工場以外の各工場で費用が増えたことと、新型コロナウイルス対策費が増えたためです。

Q: メモリーの需要回復で下期は忙しくなるのではないかと話があったが、東北工場は、2年前に需要増が生産能力を超えた春日井工場のようにはならない認識でよいでしょうか。

A: 東北工場は自動倉庫と物流システムによる効率化と生産工程の自動化推進により、今後の受注増にも固定費の増加を従来よりかなり抑えることができます。

Q: 新型コロナウイルスの影響は、2020年3月期4Q実績でどれほど出たのか。また、2021年3月期1Q予想にどれほど織り込んでいるのか。

A: 4Q売上高で▲7億円の影響がございました。自動機械で▲5億円、機器で▲2億円でした。2021年3月期1Qは、自動機械と機器あわせて売上高で約▲30億円の影響をみております。

Q: 新型コロナウイルスに関連して医薬品や医療機器向けに増産対応の話があったが、業績に与える影響

A: 自動機械と機器あわせて、現在は3億円です。人口呼吸器や酸素濃縮器用のバルブなどの引合いを国内外から頂いております。

Q: 新型コロナウイルス下における現在の半導体投資環境をどのようにみているか。

A: ロジックの設備投資は現時点では堅調に推移している、メモリーは、3D-NANDが動き始めたとみており、DRAMにも動きがありますので、最新情報を収集しながらフォローしております。

Q: 空気圧機器の東アジアおよび東南アジアでの業種別の動き

A: 東アジアでは、中国で5G対応含めたスマートフォンに関連した動きが出てきております。また、韓国の半導体投資も強い状態です。東南アジアの大きな需要は自動車向けですが、1Qは厳しく、売上は下がるとみています。

Q: 2021年3月期予想 設備投資50億円の配分

A: 2020年3月期からズレ込んでいる部分を除くと42億円～43億円になります。このうち自動機械が20%で加工機の更新、機器が80%で東北工場を中心に自動化の設備に投資していきます。また、北米の生産拠点を下期あたりに手当したいと考えております。

Q:不透明感があるなか今後の事業リスクに関する備えとして、資金枠を増やすなどの方針と対策

A:事業リスクに備えた資金確保のため、主要取引銀行と融資枠の拡大や、コミットメントライン設定準備を進めております。

Q:ボラティリティに対応するために在庫を確保するお話があったが、2021年3月期1Q末と年間の在庫水準イメージを教えてください。

A:1Q末の在庫イメージはほぼ横ばいとみております。その先は必要な在庫は少し増やそうと考えています。急激に増やさず、需要を見ながら増減を調整してまいります。

Q:全社消去費用が、2019年3月期▲46億円から2020年3月期▲40億円で減少した理由と2021年3月期のレベル感はどの程度か。

A:減少した主な費用は、SAPの導入に関わる費用です。2021年3月期は前期と同額を見込んでおります。